

「体操ニッポン」を支える体操器具開発

伝えたい千葉の産業技術 100 選

登録番号	第064号
名称（型式等）	セノー株式会社の体操器具開発
所在地	セノー株式会社
	千葉県松戸市松飛台 250
設立年	明治 41（1908）年

選定理由

セノー株式会社は、千葉県松戸市に本社を置く、明治 41（1908）年の創業の歴史を持つスポーツ器具メーカーです。昭和 39（1964）年のオリンピック東京大会で体操器具が独占受注されたのを皮切りに、オリンピックをはじめとする数々の世界大会において、体操競技や、バレーボールといった種目を中心に器具採用され、令和 3（2021）年オリンピック東京大会においてもオフィシャルサプライヤーとして器具採用されました。特に、体操競技においては、国際体操連盟（FIG）が承認する日本唯一の体操器具メーカーであり、体操器具の国内シェアは 9 割近くを誇ります。

体操競技は、器具の改良が選手の技の発達に与える影響が極めて大きい種目です。セノー株式会社は平成 16（2004）年に開発した「スプリング式ゆか」は、その代表例です。長さ 11cm の金属バネ合計 2080 個をフロア板に付け、上部カーペット下 2 層のクッション材の素材や厚さを調整して使うことで、跳躍力を高めるとともに、着地の衝撃を和らげることに成功しました。この「スプリング式ゆか」の開発により、選手からは「一回多く『ひねり』ができる」と評判が高まり、世界初の「4 回ひねり」成功の要因になるなど、「スプリング式ゆか」の開発以降、次々と高難度の技が生み出されています。平成 24（2012）年のロンドン五輪以降は欧州メーカーも追随するようになり、現在では世界標準となっています。

セノー株式会社の体操器具は、「きれいな技ができるよう器具で貢献する」という理念のもとに、選手や指導者からヒアリングを行い、意見をフィードバックさせながら開発されます。器具単独の性能追求ではなく、選手ファーストを貫く姿勢・拘りで、「世界一使いやすい」といわれる体操器具を生み出しています。体操界からは絶大な信頼を得ており、約一世紀にわたり器具の面から「体操ニッポン」を支えてきました。



セノー本社に保管されている昭和 39（1964）年の東京オリンピックで使用された「あん馬」です。日本で唯一残っている極めて貴重なものです。



スプリング式ゆかカットモデル：性質の違う 2 種類のクッションの組み合わせで、反発力と衝撃吸収を両立させ、底面には高性能スプリングが付いています。

協力：セノー株式会社

参考資料：セノー株式会社ホームページ

オリンピック・パラリンピックで活躍する千葉の匠展（平成 28 年度 現代産業科学館）